

【第6回市民公開講演会と親睦交流会】

早春の晴れ渡った青空の下、3月5日（日曜）午後0時半、東京都千代田区四谷の「主婦会館プラザエフ」にて第6回市民公開講演会と親睦交流会が行われました。今回より司会は弓倉氏にお願いしました。プロの第一声で会場が引き締まった後、NPO法人日本多発性硬化症協会、理事長の水谷裕之氏、理事兼医学顧問団代表の糸山泰人国際医療福祉大学副学長、全国多発性硬化症友の会、事務局長の若林章氏から挨拶を頂きました。その後、平成28年度医学研究助成審査委員長、順天堂大学大学院認知症診断・予防・治療学の田平武客員教授より審査に関する説明・挨拶があり、研究助成表彰式に移りました。受賞された国立精神・神経医療研究センター神経研究所免疫研究部のベンジャミン・レイバニー先生、九州大学大学院医学研究院神経内科の篠田紘司先生、埼玉医科大学医学部薬理学の山本梓司先生に水谷理事長より賞状と目録が手渡されました。その後、関西医科大学総合医療センター神経内科教授、近藤誉之先生の『症候群として多発性硬化症を観る：Red Flagの有無による治療選択』の基調講演。そして、ベンジャミン・レイバニー先生の英語による研究発表『The role of Eomes + T helper cells in secondary progressive multiple sclerosis』（「二次進行型多発性硬化症における Eomes 陽性ヘルパーT細胞の役割」和訳紹介 佐藤和貴郎先生）、篠田先生の『多発性硬化症における $\gamma\delta$ 型T細胞の新たな役割の解明』、山本先生の『環状ホスファチジン酸を用いた多発性硬化症新規治療薬開発』の受賞者講演が行われました。若手先生の素晴らしい講演に拍手喝采でした。さらに特別講演と続きました。多発性硬化症を発症されている米国人女性のマラソンランナー、シェリル・ハイルさんとご主人のブライアン・ハイルさんは昨年9月から挑戦している1年以内の世界7大陸7マラソンのエピソードを2月26日の東京マラソンも含めて熱く語ってくれました。次に、患者の皆様、ご家族の皆様、一般の皆様がご参加の先生を囲み親睦会となりました。シェリルさんとブライアンさんがそれらの輪の中に入り交流を深めました。第6回市民公開講演会と親睦交流会は、皆様のご協力、ご支援をいただき盛況に終了することができました。後援の全国多発性硬化症友の会、協力の認定NPO法人MSキャビンの皆様に感謝申し上げます。また、ご寄附を頂きました各企業様と各製薬会社様の皆様方に厚く御礼を申し上げます。基調講演と受賞者講演を頂きました近藤先生、ベンジャミン・レイバニー先生、佐藤先生、篠田先生、山本先生、特別講演のシェリルさんとブライアンさん、さらにご挨拶を頂きました水谷理事長、糸山先生、若林事務局長、田平先生、山本副理事長そして講演会にご参加くださいました患者、ご家族、一般の皆様、ボランティアの皆様、主婦会館の皆様にご挨拶申し上げます。大変ありがとうございました。今回のアンケートには、「若い研究者の方々の発表に希望を感じました。本当にうれしいです。病気の息子にそのことを伝えて励ましたいと思います。素晴らしい会でした。ありがとうございました。」「シェリルさんから勇気をもらいました。」「夢を持って前向きに進んでいるシェリルさんの姿を見て私も頑張らなくてはと思いました。」など。この講演会の報告をMSIFに発信し、世界の皆様に共有していただきます。

来年は『第7回市民公開講演会と親睦交流会』です。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

水谷理事長開会の辞



近藤先生基調講演



シェリルさん特別講演



特定非営利活動法人日本多発性硬化症協会 事務局長 中島荘次